

WORLD HERITAGE

NEWS

世界遺産ニュースレター

Letter

世界遺産富士山の
後世継承に向けて

特集

夏山登山に向けて

—静岡県文化・観光部 富士山世界遺産課—

静岡県富士山世界遺産センターからのお知らせ

研究員コラム

「富士山を識る 小林謙光
富士山資料コレクション」展をふりかえって

vol.

37

July, 2018

夏山登山に向けて

静岡県文化・観光部 富士山世界遺産課

富士山保全協力金のお願い

平成30年の静岡県側の富士山の開山期間は、7月10日(火)から9月10日(月)までです。

この期間に五合目から山頂を目指す登山者の皆さんには、各五合目及び水ヶ塚駐車場において「富士山保全協力金」への協力(基本・千円)をお願いしています。富士山保全協力金は、世界遺産富士山の顕著な普遍的価値を広く後世へ継承するための意識醸成を理念とし、利用者に応分の負担を求めるものとして、平成26年度から本格的に導入し、今年で5年目を迎えます。

静岡県では、これまで約19万人の方から、1億8千6百万円余りの御協力をいただき、山小屋のトイレの改修、噴火に備えたヘルメットやゴーグルの配備、救護所の開設費用など富士山の環境保全及び安全対策に活用してきました。

今年は、外国人のマナー向上対策のほか、昨年引き続き、山小屋のトイレ改修、救護所の開設費用などに充当していきます。

御協力いただいた方には、協力者証として、葛飾北斎の「富嶽三十六景 東海道金谷ノ不二」をデザインに取り入れた缶バッジを差し上げます。縁取りは、登山道の標識の色に合わせてありますので、どこから登ったのか記念になります。

缶バッジ



富士山保全協力金

静岡県・山梨県

富士山 とことん 協力金 検索



富士宮口・水ヶ塚



御殿場口



須走口



寄附金

今年も混雑予想カレンダーができました

富士山では、7月中旬から登山者が増え、特に週末やお盆の時期に集中します。山頂で御来光を拝みたい登山者が多いため、富士宮ルートや吉田ルートでは、夜明け前に大渋滞が発生することが、GPS調査の結果などから分かりました。安全で快適な登山を楽しむため、なるべく混雑日を避け、平常日に登山することをお勧めします。

また、須走・吉田ルート(樹林帯を除く)・御殿場ルートの登山道、富士宮ルートの一部では、御来光を望むことができるため、山頂での御来光にこだわらず、宿泊した山小屋周辺で御来光を迎え、明るくなってから、ゆったり山頂を目指すこともお勧めです。

7月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | | | | |

7/1 吉田ルート開山日
7/10 須走御殿場富士宮ルート開山日

7/16 海の日



7/27 登山競走(吉田口)



8/11 山の日



8/29-30 感謝祭ツアー(富士宮口)



9/10 閉山日

8月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |

9月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|----|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | | | | | |

■ 特に混雑 ■ 混雑 ■ やや混雑 ■ 平常

静岡県富士山世界遺産センターからのお知らせ

来場者30万人達成

静岡県富士山世界遺産センターにおきまして、7月3日に来館者30万人達成セレモニーが行なわれました。昨年12月23日の開館以来、県内外を初め諸外国からも来館いただき、当初の想定を大幅に上回るスピードで、年間目標にしていた来館者数に到達しました。今後も、富士山に関する美術展や写真展等魅力ある企画展などを開催する予定です。是非御来館ください。



活躍するサポートボランティア

静岡県富士山世界遺産センターの景観にマッチした白いベストを着た方々が、笑顔で来館者を迎えています。この方々は、「サポートボランティア」と呼ばれるボランティアスタッフ。静岡県富士山世界遺産センターを支える大きな柱となっています。高校生から年齢が80歳を超える方まで幅広い年齢構成で、知識や経験も様々な方々が来館者の誘導や映像シアターの案内でおもてなしをしています。みなさん富士山が大好きな方ばかりです。静岡県富士山世界遺産センターに訪れた際には、サポートボランティアの方々に笑顔の応援をお願いします。新たな富士山の魅力が見つかるかもしれません。



センターの施設紹介

第1回「映像シアター」

「感動した」「自分の目で富士山頂を確かめたくなった」「家族や友人にも見せたい」こんな声が寄せられている映像シアター。天候が悪く富士山が見えない日でも映像シアターで迫力ある富士山を見ることが出来ます。富士山の四季折々の自然と風景が中心の「天の巻」、富士山の信仰と芸術にスポットをあてた「地の巻」の2番組を交互に上映しています。

富士山そのものの雄大さや豊かさを国内外の来館者に感じて欲しいとの願いから、2番組とも解説や字幕はありません。「天も地も両方見たい」「もう一回見たい」というリピーターが続出しています。72席の座席が満席になることもしばしば。新番組への期待の声も上がっています。上映開始時刻

「天の巻」 毎時00分、30分（上映時間約7分）
「地の巻」 毎時15分、45分（上映時間約8分）



「富士山を識る 小林謙光富士山資料コレクション」展をふりかえって

本年4月21日(出)から6月24日(日)まで、静岡県富士山世界遺産センター2階企画展示室において、「富士山を識る 小林謙光富士山資料コレクション」展を開催いたしました。

「小林謙光富士山資料コレクション」(以下、小林コレクションと略す)は、当センターが開館する以前の平成27(2015)年12月、静岡県文化・観光部世界遺産センター整備課が寄贈を受けた資料群で、当センターにとって初めての収蔵品です。

このコレクションは、御殿場市出身の郷土史研究者・小林謙光氏(大正10(1921)年生、平成21(2009)年没)が収集したもので、小林氏の著作『富士山東口須走登山道資料解題』(小林芙蓉堂(私家版)、2007年)などで紹介された研究資料を数多く含んでいます。

小林コレクションの特徴については、江戸時代後期から現代に至る幅広い時代の資料が収集されていることがまず挙げられます。資料の種類として、絵図・古文書・古典籍・地図・絵はがき・古写真に加え、現代の富士山の観光としての側面を伝えるポスターやチラシ、ガイドブック、登頂記念品、さらには学術書を含めた書籍、雑誌など多岐にわたります(書籍や雑誌については、富士山ライブラリーで御覧いただけます)。

中でも、明治期から昭和期にかけて発行された絵はがき約7000枚は、富士山頂や登山道、周辺地域を写した写真資料として高い価値を持ち、当時の富士登山の様子を今に伝える研究資料としての活用も期待されます。

御寄贈いただいた資料は約1万点にもおよぶもので、小林氏の没後、散逸させてしまうのは忍びないという御家族の意向により、当センターに移管されることとなったのです。

今回の企画展では、小林コレクションの初公開にあたり、その多彩な資料群の柱である、絵図・古典籍・地図・登山案内書・絵はがきなどを展示し、江戸時代から明治・大正・昭和にいたる富士山と富士登山の歴史の一端を紹介することを目的といたしました。

今回の展示会で注目を集めたのが「須走中心富士細密絵図」という絵図です。こちらは、伊豆半島越しに富士山を眺める構図で須走口登山道や山頂を描いた木版多色刷りのもので、江戸時代後期に作られたと考えられます。日蓮宗の宗教観が表れた史料にも価値のあるものですが、そのデザイン性や鮮やかな色使いも目を引く資料です。小林氏も苦勞して手に入れた思い出深い資料であったことが『富士山東口須走登山道資料解題』のあとがきに記されています。

奇しくも富士山の世界遺産登録五周年の節目にあたり、富士山に魅了された小林謙光氏の旧蔵品を通して、より深く富士山を「識る」きっかけになればとの思いも込めた展示会でした。今回の開催を機に、小林氏の御家族から、謙光氏のお人柄や資料収集の方法、山へ登った思い出などもうかがう事ができ、また様々な専門家の方より展示資料に関しての御教示もいただきました。

今後、小林コレクションの活用については、未整理の資料を調査し分類していくことや、インターネット上で公開している「静岡県富士山資料デジタルアーカイブ」への搭載内容を増補していくこと、展示や調査研究の資料としてセンター内外での活用を考えています。

最後になりましたが、貴重な資料を御寄贈下さり、今回の企画展にも御尽力を賜りました小林行男氏と御家族に心より御礼申し上げます。今回の展示会を締めくくりたいと思います。

(学芸課准教授 田代一葉)